

4. 2. 対外的発表

4. 2. 対外的発表

4. 2. 1. 東南海・南海地震に関する調査研究

(1) 東南海・南海地震の想定震源域におけるプレート形状等を把握するための地殻構造調査研究

(a) 成果の論文発表・口頭発表等

著者	題名	発表先	発表年月日
Park, J.-O., T. Tsuru, T. No, K. Takizawa, S. Sato, Y. Kaneda,	A high-resolution 3D seismic reflection survey and prestack depth imaging in the Nankai Trough off southeast Kii Peninsula	Geophysical Exploration (BUTSURI-TANSA)	in press
Ayako Nakanishi, Shuichi Kodaira, Seiichi Miura, Aki Ito, Takeshi Sato, Jin-Oh Park, Yukari Kido, and Yoshiyuki Kaneda	Detailed structural image around splay fault branching in the Nankai subduction seismogenic zone: Results from a high-density ocean-bottom seismic survey	Journal of Geophysical Research	2008年
Park, J.-O., T. Tsuru, T. No, K. Takizawa, S. Sato, and Y. Kaneda	High-resolution 3-D prestack depth imaging of the Nankai Trough off southeast Kii Peninsula,	2007年日本地球惑星科学連合大会	2007年5月
Park, J.-O., and Y. Kaneda	Velocity reduction of incoming sedimentary sequence in the Nankai Trough, from high-resolution 3D seismic reflection data	2nd Korea-Japan Joint Symposium on Ocean Drilling in Jeju Island (Korea)	2007年
藤江剛、朴進午、仲西理子、小平秀一、金田義行	東南海地震の震源域における構造探査観測	2007年日本地球惑星科学連合大会	2007年5月
仲西理子、小平秀一、朴進午、尾鼻浩一郎、藤江剛、金田義行	南海トラフ地震発生帯研究の最前線	ブルーアースシンポジウム	2008年3月
藤江剛、仲西理子、朴進午、尾鼻浩一郎、小平秀一、金田義行	東南海地震の震源域における地殻構造探査	ブルーアースシンポジウム	2008年3月

4. 2. 対外的発表

(b) 特許出願、ソフトウェア開発、使用・標準等の策定なし。

(2) (a) より正確な地震活動を把握するための海底地震観測研究

1) 成果の論文発表・口頭発表等

発表者	題名	発表先	発表年月日
望月公廣・中東和夫・桑野 亜佐子・山田知朗・酒井慎 一・篠原雅尚・金澤敏彦	長期海底地震観測デー タを用いた東南海・南海 地震想定震源域におけ る地震活動と地殻構造	日本地球惑星科 学連合2007年大 会	2007年5月19 日
酒井慎一・山田知朗・篠原 雅尚・金澤敏彦・高波鐵夫・ 日野亮太・清水洋・尾鼻浩 一郎・小平秀一・金田義行	紀伊半島南東沖の海底 地震計でみられた継続 時間の長い振動	日本地球惑星科 学連合2007年大 会	2007年5月19 日
望月公廣・中東和夫・桑野 亜佐子・山田知朗・篠原雅 尚・酒井慎一・橋本信一・ 八木健夫・金澤敏彦・植平 賢司・清水洋	繰り返し長期海底地震 観測による東南海・南海 地震の境界域における 地震活動の空間変化	日本地震学会 2007年秋季大会	2007年10月 25日

2) 特許出願、ソフトウェア開発、使用・標準等の策定なし。

(2) (b) 想定震源域および周辺における地殻構造と地震活動の対比等に関する研究

1) 成果の論文発表・口頭発表等

なし。

2) 特許出願、ソフトウェア開発、使用・標準等の策定

なし。

4. 2. 対外的発表

4. 2. 2. 日本海溝・千島海溝周辺の海溝型地震に関する調査研究

(1) より正確な地震活動を把握するための海底地震観測研究

(a) より正確な地震活動を把握するための海底地震観測研究

1) 成果の論文発表・口頭発表等

発表者	題名	発表先	発表年月日
山田知朗・中東和夫・桑野亜佐子・望月公廣・武田直人・酒井慎一・篠原雅尚・金沢敏彦・日野亮太・高波鐵夫・村井芳夫・雨宮晋一郎・東龍介・町田祐弥	根室沖における海底長期地震観測	日本地球惑星科学連合 2007 年大会	2007 年 5 月 19 日
中東和夫・桑野亜佐子・山田知朗・望月公廣・篠原雅尚・酒井慎一・金沢敏彦・町田祐弥・東龍介・村井芳夫・高波鐵夫・日野亮太	Seismic crustal structure of the off the coast of Kushiro, inferred from seismic refraction survey	日本地球惑星科学連合 2007 年大会	2007 年 5 月 23 日
桑野亜佐子・日野亮太・篠原雅尚・山田知朗・望月公廣・中東和夫・酒井慎一・金沢敏彦・山本揚二郎・長谷川昭・雨宮晋一郎・村井芳夫・高波鐵夫	1968 年十勝沖地震アスペリティ付近の速度構造不均質とプレート境界面形状	日本地球惑星科学連合 2007 年大会	2007 年 5 月 24 日
中東和夫・桑野亜佐子・山田知朗・望月公廣・篠原雅尚・酒井慎一・金沢敏彦・丸山友章・佐藤利典・日野亮太・村井芳夫・高波鐵夫	Seismic structure model of asperity area of the 1968 Tokachi-oki event, revealed by a seismic refraction survey	日本地球惑星科学連合 2007 年大会	2007 年 5 月 24 日
桑野亜佐子・日野亮太・篠原雅尚・山田知朗・望月公廣・中東和夫・酒井慎一・金沢敏彦・山本揚二郎・長谷川昭・雨宮晋一郎・村井芳夫・高波鐵夫	3D Seismic Velocity Structure and geometry of plate boundary around the rupture area of the 1968 Tokachi-Oki Earthquake	IUGG2007Perugia	2007 年 7 月 6 日

4. 2. 対外的発表

桑野亜佐子・篠原雅尚・山田知朗・望月公廣・中東和夫・酒井慎一・橋本信一・八木健夫・金沢敏彦・東龍介・日野亮太・町田祐弥・雨宮晋一郎・三浦亮・村井芳夫・高波鐵夫	長期観測型海底地震計ネットワークによる日本・千島海溝会合部における微小地震観測	日本地震学会 2007年秋季大会	2007年10月25日
中東和夫・桑野亜佐子・山田知朗・望月公廣・篠原雅尚・酒井慎一・八木健夫・橋本信一・金沢敏彦・町田祐弥・三浦亮・雨宮晋一郎・村井芳夫・高波鐵夫・東龍介・日野亮太	日本海溝・千島海溝会合部における地殻構造探査	日本地震学会 2007年秋季大会	2007年10月26日

2) 特許出願、ソフトウェア開発、使用・標準等の策定なし。

(b) プレート境界及びその周辺域の3次元地殻不均質構造の推定

1) 成果の論文発表・口頭発表等

著者	題名	発表先	発表年月日
内田直希・松澤暢・平原聡・五十嵐俊博・長谷川昭	小繰り返し地震による東北日本プレート境界の準静的すべりのマッピングとモニタリング	地球惑星科学関連学会 2007年合同大会	平成 19年5月19日
Gamage, S. S. N., N. Umino, A. Hasegawa	Offshore double-Planed shallow seismicity in the NE Japan forearc region revealed by seismic waveform characteristics	地球惑星科学関連学会 2007年合同大会	平成 19年5月19日
荒尾正克・松澤暢・内田直希・有吉慶介・長谷川昭	小繰り返し地震波形の各周波数におけるコーレンスと再来間隔との関係	地球惑星科学関連学会 2007年合同大会	平成 19年5月19日
有吉慶介・松澤暢・日野亮太・長谷川昭	十勝沖地震後に発生した低周波イベントの発生要因の解明	地球惑星科学関連学会 2007年合同大会	平成 19年5月19日
趙大鵬・海野徳仁・長谷川昭	sP depth phaseを用いた日本列島周辺海域の3次元構造決定	地球惑星科学関連学会 2007年合同大会	平成 19年5月19日

4. 2. 対外的発表

桑野亜佐子・日野亮太・篠原雅尚・山田知朗・望月公廣・中東和夫・酒井慎一・金沢敏彦・山本揚二郎・長谷川昭 他	1968年十勝沖地震アスペリティ付近の速度構造不均質とプレート境界面形状	地球惑星科学関連学会 2007年合同大会	平成 19年 5月 19日
Matsuzawa, T., N. Uchida, T. Okada, K. Ariyoshi M. Arao, A. Hasegawa	A modified asperity Model for the interpolate earthquakes in the northeastern Japan subduction zone	EASTEC	平成 19年 9月 18日
Matsuzawa, T., N. Uchida, T. Okada, K. Ariyoshi, M. arao, A. Hasegawa	A modified asperity model for the interpolate earthquakes in the northeastern Japan subduction zone	EASTEC	平成 19年 9月 18日
Ariyoshi K., T. Matsuzawa, R. Hino, A. Hasegawa, Y. Ksneda	Relation between repeating earthquake activities and its focal depth	EASTEC	平成 19年 9月 18日
Hino, R., Y. Yamamoto, A. Kuwano	Heterogeneity of seismic velocity structure and its relevance to the interplate coupling in the northeastern Japan forearc	EASTEC	平成 19年 9月 18日
Gamage, S. S. N., N. Umino, A. Hasegawa	Offshore double-Planned shallow seismicity in the NE Japan forearc region revealed by seismic waveform characteristics	EASTEC	平成 19年 9月 18日
飯沼卓史・三浦哲・内田直希・佐藤俊也・立花憲司・長谷川昭	GPS データから推定された東北地方のプレート間カップリングの時空間変化-2002年から 2006年まで-	日本地震学会 2007年秋季大会	平成 19年 10月 1日

4. 2. 対外的発表

松澤暢	プレート境界における応力集中過程	日本地震学会 2007 年秋季大会	平成 19 年 10 月 1 日
荒尾正克・松澤暢・内田直希・長谷川昭	プレート境界における非相似地震と相似地震の関係	日本地震学会 2007 年秋季大会	平成 19 年 10 月 1 日
長谷川昭	沈み込み帯における水の循環と地震・火山活動-東北日本を例として-	日本地震学会 2007 年秋季大会	平成 19 年 10 月 1 日
Gamage, S. S. N., N. Umino, A. Hasegawa	Earthquake generating stress of the offshore double-planed shallow seismic zone in the NE Japan forearc region	日本地震学会 2007 年秋季大会	平成 19 年 10 月 1 日
内田直希・松澤暢・中島淳一・長谷川昭・広瀬冬樹	小繰り返し地震からの変換波による関東地方のフィリピン海プレートの形状推定	日本地震学会 2007 年秋季大会	平成 19 年 10 月 1 日
飯沼卓史・三浦哲・内田直希・長谷川昭	東北日本下のプレート間カップリングの時空間変化	「アスペリティのマッピングとモニタリング (EARS)」シンポジウム	平成 19 年 11 月
荒尾正克・松澤暢・内田直希・有吉慶介・長谷川昭	小繰り返し地震アスペリティの微細構造とすべり特性の時空間的ゆらぎ	「アスペリティのマッピングとモニタリング (EARS)」シンポジウム	平成 19 年 11 月
有吉慶介・松澤暢・日野亮太・長谷川昭・堀高峰・金田義行	相似地震と震源の深さとの関係	「アスペリティのマッピングとモニタリング (EARS)」シンポジウム	平成 19 年 11 月
内田直希・松澤暢・長谷川昭	小繰り返し地震によるプレート境界の地震活動の理解, 地震活動のモデルと予測に関する研究	統計数理研究所 共同研究集会	平成 19 年 11 月
Uchida, N., T. matsuzawa, J. Nakajima, A. Hasegawa, F. Hirose	Configuration of the Philippine Sea plate in the Kanto district, Japan, estimated from SP and PS converted waves	AGU 2007 Fall Meeting	平成 19 年 12 月 1 日

4. 2. 対外的発表

松澤暢	相似地震（小繰り返し地震）の発生ゆらぎをもたらす原因の解明	地震・火山噴火予知 研究計画シンポジウム	平成 20 年 3 月
三浦哲	プレート沈み込みと大地震発生メカニズム-最新の研究成果から-	第 39 回溶融塩化学 討論会講演要旨集	平成 20 年 1 月 1 日
長谷川昭・中島淳一・北佐 枝子・辻優介・新居恭平・ 岡田知己・松澤暢・趙大鵬	地震波でみた東北日本沈 み込み帯の水の循環-スラ ブから島弧地殻への水の 供給	地学雑誌 11-7	平成 20 年 3 月 1 日

2) 特許出願、ソフトウェア開発、使用・標準等の策定
なし。

(c) アスペリティ周辺の地震活動の特性に関する研究

1) 成果の論文発表・口頭発表等

著者	題名	発表先	発表年月日
Kuwano, A, Hino, R, Shinohara, M, Yamada, Y, Mochizuki, K, Nakahigashi, K, Sakai, S, Kanazawa, T, Yamamoto, Y, Hasegawa, A, Amamiya, S, Murai, Y, Takanami, T	3D Seismic Velocity Structure and geometry of plate boundary around the rupture area of the 1968 Tokachi-Oki Earthquake	2007 IUGG	2007 年

2) 特許出願、ソフトウェア開発、使用・標準等の策定
なし。

(2) 過去の地震活動などの調査

(a) 成果の論文発表・口頭発表等

著者	題名	発表先	発表年月日
海野徳仁・河野俊夫・ 長谷川昭・田村良明	すす書き記録による 1933 年 三陸沖地震 (M8.1) の再検討	日本地震学会秋 季大会 (仙台)	2007 年 10 月

(b) 特許出願、ソフトウェア開発、使用・標準等の策定
なし。

4. 2. 対外的発表

(3) 広帯域高ダイナミックレンジ孔井式地震計の開発

(a) 成果の論文発表・口頭発表等

著者	題名	発表先	発表年月日
功刀卓・小原一成・ 笠原敬司	広帯域高ダイナミック レンジ孔井式地震計の 開発	地球惑星科学関 連学会合同大会	2007年5月19日

(b) 特許出願、ソフトウェア開発、使用・標準等の策定

なし。